



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

新地町公民館訪問：

新地公民館・観海ホール（10/27）

新地町公民館訪問（新地公民館）の概要

日 時 令和7年10月27日（月）13：20～15：30
場 所 新地町新地公民館：研修室 観海ホール：会議室
参加者 新地町…2名、相馬市…1名、相双教育事務所…3名 計6名



公民館訪問(13:20～15:30)

【新地町新地公民館からの報告】

◎新地町教育目標…「夢を育み 可能性を伸ばす」

◎生涯学習・社会教育事業

1,家庭教育事業（家庭教育学級）

町内各小中学校と連携し、保護者及び児童・生徒を対象に講座等を実施した。

2,青少年教育事業

(1) 読書活動ボランティア支援事業

町内各小中学校での読み聞かせや昔語り 36回

学校図書館コーナーの図書選書作業などの図書館活動 27回

(2) 青少年健全育成事業

「第29回新地町少年の主張大会」「十七のふれあい」作品募集 等

(3) 第29回姉妹・友好都市シニアリーダー研修交流会

今年度は新地町を会場として、新地町、伊達市、柴田町、亘理町、山元町の30名の中高生が交流した。

3,男女共同参画推進事業

第24回新地町男女共生のつどい 男の料理教室 等

4,生涯学習応援事業

(1) 各種教室・生涯学習講座

*美体幹ヨガ教室 *俳句教室 *太極拳教室 *フォルクローレ・ケーナ教室 *陶芸教室

*洋菓子&パン教室 *ガーデニング教室 *ハンドメイド体験教室 *そば打ち教室

*ハーバリウム&アートフラワー教室 *和のキルト教室 *健康運動教室 *デジタル教室 等

住民の希望で、健康運動教室とデジタル教室が新設された。ほとんどの講座が定員に達するほどの人気がある。

(2) 学習サークルの案内

(3) 生涯学習フェスティバル

年明けの1/24・25の2日間にわたり、文化団体や公民館講座等の学びの成果を発表し、生涯学習の機会の拡大を図る。

(4) 新地町職員出前講座

(5) 移動教室

5,新地町二十歳のつどい開催事業

6,社会教育施設の管理運営事業

◎社会体育（スポーツ）事業

7,体育関係団体支援事業

8,スポーツ推進事業（スポーツ推進委員会）

*自然体験ハイキング *NEW スポーツ「モルック」体験教室



新地町新地公民館



9.市町村対抗競技支援事業

＊市町村対抗軟式福島県野球大会 ＊市町村対抗福島県ソフトボール大会

＊第37回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（試走や事前の別な大会参加等の補助をしている）

10.町民プール事業

11.文化・スポーツ激励金交付

12.社会体育施設の管理運営事業

13.総合型スポーツクラブ支援

◎文化事業

14.新地町文化協会事業

15.文化芸術振興事業

16.歴史文化振興事業「歴史と文化の魅力あふれる新地へ」

【学びのツアー】【史跡説明案内看板設置事業】【縄文土器づくり】

17.アート事業

【新地ゆかりの4人の画家たちの絵画展】【横山孝雄企画展】【食の体感イベント】【デジタルスタンプラリー】【新地アートの魅力発信招聘ツアー・新地アートサイン制作ワークショップ】【新地アートワークショップ】【SNSフォトコンテスト】

新地公民館の職員の皆さんは、このような多種多様な事業を限られた人数で行っています。新地町にあった観海堂の建学精神であった、広い視野と深い思慮を礎として、笑顔と活力があふれる故郷の創造を図っていました。

※観海堂…明治5年、学校制度についての法律が頒布される直前に開校した福島県で最も古い学校です

【観海ホールでのパソコン教室見学】

当日は、7名の受講者が真剣にパソコンのスキルアップに励んでいました。スマホは多くの方が持っていますが、意外とパソコンに触るのが初めてという方も多くなってきており、パソコン教室の需要は再び高まってきます。研修当日はインターネットでの検索方法やお気に入りへの登録の仕方などを一人一人が自分のペースで学んでいました。

専門の講師が一つ一つ丁寧に教えてくださっているので、正しくスキルを身に着けることができていました。検索のやり方では、完全一致検索やあいまい検索など、実際役立つ技を学んでおり、自己流で使うよりも近道でスキルが身に着くと感じました。

これからは身に着けた技術を、周りの人に教えていけるようになるでしょう。ICTの町である新地町の素晴らしい学びを見せていただきました。【今回掲載した写真は全て相双教育事務のデジタルカメラで撮影したものです】



大学生によるアート作品



新地町文化交流センター「観海ホール」



パソコン教室の様子

【社会教育・生涯学習事業及び公民館運営にかかる現状と課題】

社会教育・生涯学習事業や公民館運営の課題として挙げられることは、公民館の減少と利用者の減少です。その背景には市町村合併や人口減少に伴うコミュニティセンターへの移行や、コロナ禍があります。しかし、今回の公民館訪問で話を聞くことができた新地町や相馬市では、利用者は増えているという感覚があるということです。どちらの自治体も職員数はギリギリの状態であるが、生涯学習に対する熱い想いと、住民の方々の学びたいという意欲が支えていることが要因と考えられます。

また、社会教育行政には3つの大きな課題があると言われています。1つ目は、行財政改革により社会教育予算が縮小し、専任の社会教育主事の不在や少人数体制の公民館運営が常態化したこと。2つ目は、保健・福祉・家庭・地域振興など多部門が類似の生涯学習施策を個別展開し、重複や連携不足が生じていること。3つ目は、NPO・大学・企業など多様なプレイヤーの参入が進み、住民に有益な一方で、全体を束ねる調整役が必要になっていることです。そこで提唱されていることが、公民館や生涯学習課を中核に据え、施策間の連携と資源配分の最適化を図り、経験知を活かしたネットワーク型行政へ再構築することです。

公民館は、地域の実態に応じた学習と活動をつなげ、地域づくりへ還元する新たな拠点を目指すべき場所であり、公民館が果たすべき最重要の役割は、住民が主体的に地域課題を解決するための学習を推進し、その学習成果を実際の地域活動へ橋渡しすることです。加えて、「社会に開かれた教育課程」を実現するため学校との連携を強化し、地域学校協働活動の拠点機能を担うことも期待されています。

新地町でも導入される地域学校協働活動は、相双地区で広がる一方、学校側の関与が弱く地域住民の努力に偏る事例や、従来の学校ボランティアの延長にとどまる事例もみられます。根本原因は「活動による新たな気づき」や「学校のニーズに根差した新たな学び」が弱いことと考えられます。そこで、公民館講座と地域学校協働活動を接続し、学習と実践の循環を設計することが改善策となります。ある小学校でのサツマイモの栽培事業を通して、地域の住民が小学生にサツマイモ栽培を教え、小学生がデジタル機器の使い方を地域住民へ教えるという循環の計画は好例で、新地町の高度なデジタル環境を活かせば同様の試みや新講座創出が可能です。

総括すると、公民館が生涯学習を取りまとめるのは、住民のつながりを支えつつ子どもへの学びを提供し、地域学校協働活動へ展開できうる強みがあるからです。今後は趣味型講座に加え、学びを地域課題解決へ活かす実践志向の講座を設け、学習成果が地域と学校の関係強化に結び付けることが望まれます。

